

管理棟脇の桜 (D-17) の伐採について

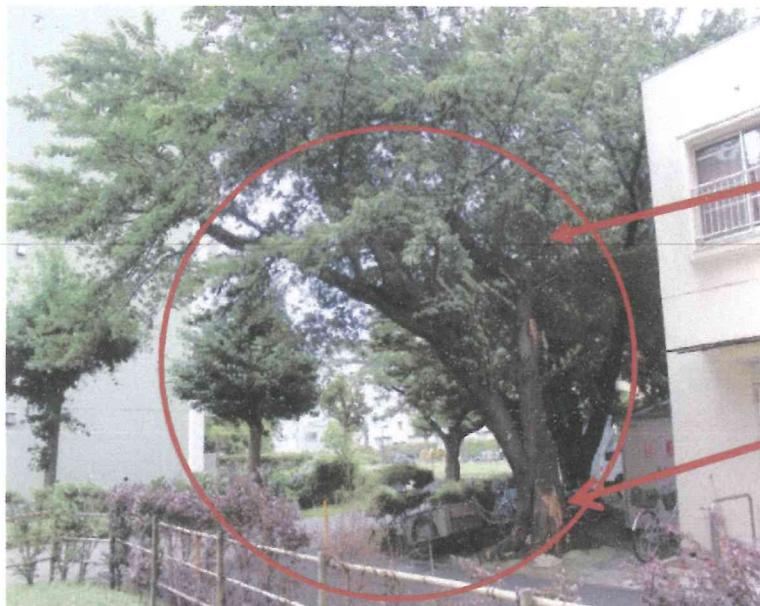
この度、昨年度より検討を続けてまいりました構内の危険木対策の一環として、皆様に愛されてきました桜の古木を伐採することとなりました。

理由は過去から適切な剪定が行われてきたと考えられますが、昨年10月に実施しました奈良造園土木(株)樹木医の診断によりますと、根元の全周にベッコウタケが着生しており、過去に伐採した分岐枝には白色腐朽のスポンジ状態が見られ、いつ倒木が起きるかわからないとの診断結果でした。

管理棟脇には4本の桜がありますが同じ状態の桜が3本あり、今回1本伐採した結果、やはり危険と判断された場合は同様の伐採となると思われますが、今回は1本伐採致します。

ベッコウタケとは根元をスポンジ状に腐朽してしまう菌で、倒木時は根がほとんどない状態となります。

9月1日に伐採を計画しておりますが、当日は朝から通行止めとなります。皆様のご理解を宜しくお願いします。



桜 (D-17)

下部が著しく腐朽が進んでおります



ベッコウタケ



過去に強剪定された幹部分、スポンジ状に腐朽